平成 30 年度　学校経営報告

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・５段階）	
１　学校運営 ア　会議の省力化を進め、効率的な学校運営を推進した。 イ　生徒の現状に即した教育課程の改編を図り、特に、基礎学力向上のための普通教科の必登録化と、キャリア科目のスリム化を実現した。 ウ　教育課題に対応した委員会を組織し、解決案を企画調整会議に提言させた。 エ　本校に対する都民のニーズからグランドデザインを策定するなど、次期学習指導要領改訂を見越した学校改革を積極的に推進した。	**１　学校運営** 以下の改善計画を達成した。 ・言語活動を基礎としたアクティブ・ラーニングを国語、地歴・公民、数学、理科、英語で導入し、生徒に「授業で何を教えるか」から「何を考えさせるか」に指導観を転換して、深く考える授業を追究した。 ・教育課程を見直し、「日本の伝統文化」の自由選択科目化するとともに、「茶道」を新規開講した。これによって２年次の自由選択講座の枠が広がるとともに、伝統文化関係の科目の重点化を図ることができた。 ・２年次で必登録科目として「国語演習」・「数学Ａ」・「英語表現」（各２単位）をスタートし、上級学校進学に向けた教育課程に移行することができた。 ・授業日数確保と学校行事の精選の観点から、３期制に移行した	５
２　学習指導 ア　少人数習熟度別指導や誉めて伸ばす指導を基本に、生徒の「自発学習」を促し、学力を伸ばす。 ○ 学習到達目標を明確にし、小さな達成感を積み重ねて自己効力感を育てる。 ○ 毎回の小テストや家庭学習の工夫により、学習習慣を身に付けさせるなど、計画的に生徒に負荷をかける。 ○ 基礎力診断テスト結果を活用し、個々の生徒の学力の到達度を明らかにして指導に役立てる。 イ　授業の質を向上させる。 ○ 言語活動を導入し、生徒を積極的に授業に参加させる。 ○ ＩＣＴ機器を使った授業展開に挑戦する（年最低１回）。 ○ 生徒による授業評価を行い、授業改善策を各教員でまとめる。 ウ　新たな教育活動の導入 ○ 土日・祝日や長期休業日に「社会体実習」を実施し、教室で学んだ知識や内容の定着と深化	**２　学習指導** ア　わかる授業を目標に、個に応じた丁寧な少人数習熟度別指導を実施し、良好な結果を得た。 学校評価アンケートの結果は以下のとおりである。 ・「基礎学力をつけるために、授業以外にも自分なりに学習している。」 Yes…56.0%（前年比-1.0%） ・「授業では教材や教え方を工夫し、熱心に指導している。」 Yes…84.0%（前年比＋1.0%） ・「選択科目は、興味や関心を持てる科目である。」 Yes…86.0%（前年比-3.5%） イ　授業の質の向上 ・アクティブ・ラーニング推進校の指定を受け、他府県の先進校を積極的に視察するとともに、有識者を校内研修の講師に招き、「生徒に何を教えるか」から「生徒に何を考えさせるのか」に授業の質的転換を図った。 ・タブレットパソコンをはじめ、ＩＣＴ機器を活用したことにより授業が活性化し、特に数学においては高い成果を実現した。 ・英語多読の授業や JET の活用により、英語学習に積極的な生徒が増えた。また、オンライン英会話を試行実施するとともに、夏季休業日中に、希望生徒を対象に English Camp を実施した。 ・生徒の授業出席率は 79.7%に向上した（前年比＋6.3%）。 ウ　新たな教育活動の導入 ・地歴・公民科の「国会議事堂衆議院議員会館」の見学をはじめ、６教科等で「社会体験実習」	５

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・５段階）	
を図る。 ○　土日・祝日や長期休業日に資格取得や検定試験受験を目的にした「検定対策講座」を実施する。	を16回実施し、延べ140名の生徒が参加し、様々な体験活動を通じて学習を深めた。 ・「検定対策講座」を43講座実施し、延べ187名の生徒が受講した。この結果、漢検２級７名、英検２級７名などの難易度の高い検定試験合格を出すことができた。 ・土日・祝日や長期休業日に「みのりゼミ」を開講し、10人未満の生徒を対象に、日頃の授業よりも高いレベルの教材を用い、深く考え追究する学習を実施した。数学、日本史、世界史、公民、数学、化学、物理、英語の各講座を開講し、大学受験に備えた内容を取り扱うとともに、授業に先行してアクティブ・ラーニングの手法を先駆的に取り入れた。 ・今年度初めて、アジア各国の留学生を講師に招いてEnglish One Day Campを２回実施した。	
３　進路指導 ア　組織的なキャリア教育により、進路決定率を向上させる。 イ　キャリア教育を通して「社会的な自立」につなげる。 ウ　「社会的な自立」を実現する指導を行う。 ベネッセや若者サポートステーション等の外部機関と積極的に連携する。 エ　学校独自に上級学校訪問を実施し、生徒の進路意識を醸成する。	**３　進路指導** ア　３月３１日現在の進路決定率は、約73%。 ○現役合格者 ・MARCH　３名 ・日東駒専　３名 ○　就職内定者　16名 イ　意欲向上するキャリア教育を展開 ○　「キャリア通信」を11回発行 ○　上級学校見学会を４回実施し、延べ92名の生徒が参加した。 ウ　関係機関と連携した進路指導 ○　地域の若者サポートステーションと連携し、校内で相談活動を実施して、複数の生徒を進路実現に結びつけた。	４
４－１　生徒指導（学校生活） 落ち着きのある学校生活を保障する。 ア　安心安全な学校を作る。 ○　生命と人権の尊重、自他のチャレンジ尊重 イ　落ち着いた学校生活をおくらせる。 ○　校服の正しい着用、「笑顔で挨拶」の励行 ウ　きれいな学校環境を守る。 ○　校内清掃の徹底、ゴミ分別を発展させる。	**４－１　生徒指導（学校生活）** ア　「他人のチャレンジを邪魔しない」、「安心・安全の学校」を合言葉に、落ち着いた雰囲気の学校づくりを推進した。特別指導の発生件数は、６件に抑えることができた。 イ　ＳＮＳの利用について指導を徹底した結果、トラブルの発生を防ぐことができた。 ウ　きれいな学校作りとして、生徒主導によるゴミ分別制度を実施した。	４
４－２　生徒指導（特別活動・部活動） ア　みのり杯、稔祭等の学校行事を充実する。 イ　生徒の自主性を育てる生徒会活動を充実する。 ウ　生徒の個性を引き出す部活動を活性化する。 エ　生徒の生活集団の形勢を促す。	**４－２　生徒指導（特別活動・部活動）** ア　みのり杯（体育祭）を全校規模（全日）で実施した。 また稔祭（文化祭）では、例年に比して多数の来校者があった。 イ　生徒会や行事委員会が自発的・計画的に運営されるようになった。 ウ　部活動参加率は45%に向上した。	

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・５段階）	
４－３　生徒指導（防災教育） ア　災害に備えた校内体制（防災委員会） イ　震災を想定した防災訓練（年４回） ウ　災害に対応できる備蓄（企画室、総務部）	**４－３　生徒指導（防災教育）** ア　携帯型防災ポケットメモを作成配布した。 イ　震災を想定した防災訓練を年４回実施した。 ウ　部活動単位で、地域の防災訓練に参加した。 エ　学校設定科目「防災技術」の受講者を中心に、１１月に宿泊防災訓練を実施した。避難所運営のミドルリーダー育成を目指すとともに、地域住民や消防団にも参加していただき、連携を深めることができた。	
５　保健指導（心と体の健康づくり） ア　カウンセリング委員会を中心に相談機能（ＳＣ、みのりの場等）の連携を強化。 イ　情報交換会における生徒情報を活かし、特別支援教育コーディネーターを中心に支援体制を構築する。 ウ　学校保健計画、学校安全計画を立案し実行。	**５　保健指導（心と体の健康づくり）** ア　延べ 458 名の生徒がＳＣ、みのりの場を利用するなど、保健相談機能が充実した。 イ　保健室来室者統計を毎月発行し、生徒状況を全校で把握した。また自立支援チームの取扱いケース数は２８２件にのぼり、大きな貢献を果たした。 ウ　体罰根絶といじめの総合対策に基づき、アンケート結果を重視して生徒へのヒアリングを徹底した。	４
６　募集・広報活動 ア　個別相談、学校説明会、募集要項説明会を通して受検者や保護者の学校理解を深化する。 イ　学校 PR を再構築し、応募倍率をアップする。 ウ　学校ホームページを頻繁に更新する。	**６　募集・広報活動** ア　「Minori Journal」や「みのり Q&A」を作成するなど、募集対策を充実させた。 イ　学校公開と体験入学を各１回ずつ増やすなど、募集対策を拡充したところ、応募倍率は 1.48 倍に達した。 ウ　ホームページを約 250 回以上更新するとともに、内容の充実を図った（Minori Weekly 、みのり Q&A、稔ヶ丘がめざす学びの質など）。また、YouTube により学校行事の紹介も試行した。 エ　体験入部を実施した。（軟式野球部、バスケットボール部、サッカー部、陸上競技部、演劇部）	５
７　地域交流、保護者 ア　地域小中学校、町会・地区委員会等、地域との連携を強化する。 イ　ボランティア活動を推奨し、地域と交流を推進する。	**７　地域交流、保護者** ア　他府県の教委や学校、地区委員会等の来校が増え、教育活動の公開が進んだ。 イ　ボランティア活動推進校の指定を受けるとともに、ボランティア部が本校生徒のボランティア活動をコーディネートし、延べ 20 回以上のボンティア活動を行った結果、ボランティアサポートチームが東京都教育委員会から児童・生徒表彰を受けることができた	４

次年度の課題

１　授業や学校行事の工夫・改善を通じて、生徒の授業出席率の向上を図る。
　・79.7%であった授業出席率を80%台後半に向上させる。
２　都教育委員会のアクティブ・ラーニング推進校の指定を受けたことから、各教科・科目の見方や考え方を追究する授業の実践を継続する。また、英語教育を中心にグローバル教育を推進する。
３　ワンランク上の教材を用いる「みのりゼミ」や「勉強合宿」を継続・拡大し、生徒の多様な教育ニーズに呼応する。
４　３年次の学校設定科目（福祉活動）の内容を再検討し、教育課程を改編する。
　・生徒の実態にあった体験的な学習を積極的に導入する。
　・福祉関係への進学・就職に対応できるよう内容を精選する。
５　生徒の興味・関心や進路に応じた、新たな自由選択科目の設置について検討する。
６　都教育委員会のボランティア活動推進校の指定を受けたことから、マイレージに対応したさらなるボランティア活動の拡充を図る。
７　Ⅲ部の増学級に対応し、Ⅲ部生の授業選択に柔軟な対応をとる。
　・１時限目からの授業選択を可能にし、夜間部のイメージを払拭する。
　・講座増に備えて、増設したゼミ室５部屋を活用する。
８　今後の生徒の定員増に備え、施設・設備を整備・充実させるとともに、校内の生徒の居場所づくりを推進する。
　・HR教室がないことから、授業の空き時間等の生徒の居場所づくりが引き続き急務である。
９　心と体の健康管理について、カウンセリング委員会を中心に情報共有化を進める。
　・自立支援チームと連携して、生徒の授業出席率の向上を図る。
　・みのりの場の利用を柔軟に運用し、長期欠席者の解消に努める。
10　引き続き中途退学者を減らし、卒業者を増やしていく。
　・目標　中退率 5%未満、　卒業者　毎年180人
　・ピアサポート（生徒同士の支え合い）の導入により、中退率を減少させる。
　・社会体験活動による単位認定（マイレージ）の積極的な運用により、単位修得の機会を増やす。
11　アクティブ・ラーニングをはじめ、喫緊の教育課題に関係する校内研修を充実させ、本校のグランドデザインに基づき、生徒の実態に応じた柔軟な教育が継続的に行われるようにする。
12　大規模な地震への対策として、今後も地域と連携した防災訓練や防災教育を充実させる。